

ちよいワルオヤジの古代史エッセー
第四回「古代史を楽しんで」一違う景色

大和川 一路

1. 日常のある一日
2. 薩摩の旅
3. 歴史講座で
4. お城めぐり
5. 日常のある一日

1. 日常のある一日

『今日、新聞で読んだんだ。いやはや団塊世代のおじさん向けの広告ばかり。どちらかという健康ものが多かったけど、僕は笑わずにいられなかった』

「ア・デイ・イン・ザ・ライフ」(注釈1)の一節を真似てみました。

目が覚めた。明けやらぬ中で、壁の時計を見たら6時10分をさしていた。トイレに行くと、もう一度見たら2時半だった。笑ってほしくて二人に話したが全く通じない。このお二人、年の割にはスマホも使いこなすしデジタル種族に進化している。アナログ世界にいる私と笑いのツボが違ってきたのかな。

いつもと違う日常の始まり。朝風呂で暖まり、夜明けのコンビニに行く。今日はどの新聞にしようかな？この時間は外人さんばかりだから、「今日の新聞は120円だよ」と教えてあげる。その日の気分次第、今日の新聞は広告が当たりだった。

【渋滞中に便利 繰り返し使用できる携帯ミニトイレ 傾けてもこぼれません】

繰り返し使用ってチョット想定できないけど。高速道路で腹が痛くなって、限界突破寸前になったことがあったけど、こっちの使い切りの方が高く売れそうです。

【鼻毛も耳毛もキレイにお手入れ 安心・安全のエチケットシェーバー】

電車の中でおじさんが、これで鼻のお手入れを始めたら、お婆さんはどういう反応をするのだろう。「あら、マナーが分かってらっしゃる方」って好意を持つのかな。

【「古代史の研究」津田左右吉 記紀の虚構性を暴き、発禁となった歴史書！】(注釈2)

出た～また、この広告。「天照大神は男」「神武東遷は別人」「憲法十七条は贋作」とくれば、古代史学び始めの方は買ってしまおう。一定の需要があるのでしょう。

四年前『古事記および日本書紀の研究』に飛びついたが、1ページも読まなかった。

【屋久杉大勾玉 驚愕の幅25cm!! 圧倒的な所蔵価値を誇ります！】

価額は市場の需給で決まる。所有することの価値か。これは絶妙な言い回しだ。むかし、中国で買った象牙の印鑑は捨てたけど。

ひとり広告検討会までやるようになって、アツという間に昼になってしまう。

講座の先生から「文章を書くことも良いでしょう」と言われ、「古代史ノート」の他に「旅のヒント」というノートを作り、メモ帳をそこかしこに配置した。書きとめるようにしたら忘れかけていた記憶が呼び起されて連鎖して、ノッペリしていた日常に色がつく。「数独」や「間違い探し」はパターンの繰り返いで 20 分で終わってしまうが、「蘇る記憶の記録」は脳の作業量が違う。「人生の出来事を文章化しておくといずれ経験知となる」と書いてある。

でも、なんとも滑稽で恥ずかしい記憶ばかりが蘇る。

【低学年の時、男子は横一列に並んで、壁を這うウジ虫に向かってオシッコをかけていた。下校の時に野イチゴを探しに横道にそれたら、畑の肥溜めにズボッと落ちた】

【中学一年生、学校への桜並木はどこもかしこも毛虫がうごめいていた。いつも反対側を恐々歩いていたが、ある日首筋に毛虫が落ちてきて、身の毛もよだつ恐怖を味わった】私の中の感知計の針がカチッと動いた瞬間が、子供の頃の日常には幾度もあった。

昭和を生きた人ならば同じ景色の中にいたと思います。



みんな貧乏で穴の開いた靴で学校に行くと、青洩を垂らす子もいたし、五厘刈り坊主もいた。かと言って、困窮していた風でもなく、妙に仲のいい集団生活をしていたような記憶がある。バッタもカブト虫も沢山いたし、道でヘビをよく見た。ザリガニをマッカーサーと呼んでいて、カエルをむいて餌にしてバケツにドツサリ採って家に持ち帰り、庭の池に放すと次の日にはいなかった。

遺品整理から出てきた半世紀前の写真は、記憶と違わなかった。ポロボロを纏っていても何か楽しそうだ。

『スタンド・バイ・ミー』には子供たちが大人になっていくある出来事が描かれている。私にも特異な出来事があったに違いない。別の日にもう少し思い出してみよう。

今日の思い出し最高傑作は、定年後に親方のようになった師匠がジム通いを始め「ゼイ肉買取キャンペーン」を何を思ったか申し込み、「やっとそういう気持ちになったのですね。師匠がんばれ」って応援しましたが、体重を増やしてジムをやめたことです。この日は広告検討会から記憶の掘り起しとその後の人生にどんな影響を与えたのか、真面目に真剣に考えていたらアツという間に夕刻になってしまった。

今夜はシーバースリーガルをロックで三杯『オーシャンズ・イレブン』でも観てみよう。サントリーの白州蒸留所でもらったグラスに氷を三個入れる。三味線が鳴りだした。水前寺清子が「イエローサブマリン音頭」を謡いだした。これだけは虫唾が走るほど嫌いで許せない。昔も許せなかったし、今日も台無しになった。

注釈1 ア・デイ・イン・ザ・ライフはビートルズの最高傑作「サージェント・ペパーズ」の締めくくり曲。40人編成のオーケストラも入り、個々の楽器の最低音から最高音まで演奏されている。ロックの最高峰。「この世にビートルズの曲がなかったら全く別の世界になっていただろう」と『イエスタディ』の中で謎の男女が語る。

注釈2 津田史観は今日の歴史学・考古学の主流とのことである。

『古事記および日本書紀の研究』を読まなかったのは、専門家が論じたものを読んでいて、目新しさを感じなかったからだけの理由でございます。

虚構として退けるよりも、伝承や地名には過去の記憶が残っていると思うのだが、文献批判って学問として成立するのだろうか。

もし、古代史をかじり始めた後輩に、「津田左右吉って、どんな根拠で論が展開されているのか教えてくれ」と言われても、素人はもっと知らない素人にたとえ話でしか説明しようがない。彼が経理にいたらこう話をするだろう。

「批判文献学って、バランスシートの在庫評価だけで経営しているように思えるよ。完成品在庫は明日の糧だよね。それを不良品だと言っているようなもので、『記紀』を資産か負債か資本かどこに据えて歴史を考えるのか、個々人の立ち位置の問題ではあるが、史書は知的財産か資本として日本の歴史を考えた方が果実は大きいと僕は思うのだけどね。

知財の計上は少額だけど、未来を変えると分かれば株価で市場に評価される。人件費も「人への投資」へと変わり、経費から資産へと経営の考え方が変化してきた。土地の含み益経営も流行ったけれど、その後どうなったかあなたも知ってるよね」今日の主流は明日の傍流、時代が変われば立場も逆転する。

かくも長く続く史観の対立で、背骨がないままの日本でいいわけがない。

2. 薩摩の旅

歴史旅の一丁目一番地だった「菜の花と桜の西都原古墳ツアー」が催行中止との連絡があり、理由を聞くと「四人しか集まらない」。万人受けするような所じゃないし、しかたないなあ…。そんな時、大和四寺巡礼で知りあった仲間から薩摩ツアーの誘いがあり飛び乗りました。古代史ばかりじゃ飽きも来るし、鹿児島は懐かしいところだ。「開聞岳に向かってフルショット」は20年も前のことだ。もう一度行きたい所もある。

指宿温泉と霧島温泉へのツアーバスの中で温泉の効能レクチャーを受け、夜朝夜朝と四回も入ってしまった。長崎鼻や釜蓋神社や仙巖園をフワフワ状態で巡ったものだから、土産物売場に山盛りあった屋久杉の木彫りの値段を見るのを忘れてしまった。売れ残った木彫りの所蔵価値なるものを見たかったのだが。

黒酢の郷「梶志田」で酢豚を食す。「あ〜うまかった」「うしまけた」

「はあん？なにそれ？」

「名古屋ではそう云うんですよ。馬が勝ったから、牛が負けたんです」

「最近酢豚にパイナップルが入ってないですね」「あのね、いつのこと？」

帰りのバスで「二日市温泉大丸別荘」が年二回しか湯の取り替えをしていなかった記事を読んで、背骨が折れそうになった。

知覧で特攻隊員の遺影を見る。遺書の字には心棒が入っている。

若い見学者が多かった。ここに来る彼らはウクライナの人々とプーチンの残虐を見ている。「自分は戦うのか逃げるのか」覚悟の違いで、違う涙を流すのだろう。

北朝鮮が韓国に進軍し、中国が台湾に侵攻し、ロシアが日本に特別軍事作戦を発動したら、何が起きても空気は一変する。拉致家族奪還も領土問題も憲法改正も皇位継承もいつ決着するのだろうか。NHK 党が「政治家女子 48 党」に党名変更とのニュースを聞いて余りの緊張感の無さに、あほらしの鐘が鳴る。

この前、瀬名が家康に「ひとつのクニがバラバラじゃあほたわけ」と言っていた。

「どうする、どうする」で考えさせてくれるので、もう少し我慢してしてみる。

「今ここにある危機」を明後日に放りやり、WBC で日常は歓喜の連続である。

JAXA 内之浦の見物。一週間後、種子島のロケット打ち上げが失敗してしまった。

三菱スペースジェットを断念し、重工のクルーズ船は火災を起こすし、三菱自動車はリコール隠しやデータ改竄で日産の傘下に入った。宇宙、空、海、陸で誤算？続きだ。元愛知県人だからからトヨタの肩を持つ訳ではないが、トヨタは「モノづくりの思想」を語るが、三菱からそんな思想をとんと聞いたことがない。現場が崩壊しているとしか言いようがない。「英知を結集して乗り越えてほしい」との思いは同じだが、QCDMS でこれだけ問題を起したら、どこから手を付けるのだろうと他人事ながら心配になる。

霧島神宮



どうもおかしい。迫ってこない。

由緒書は瓊瓊杵尊、木花開耶姫尊から神武天皇までオールキャストのオールインだ。アレっ、神武天皇じゃなくて神倭磐余彦尊と書くべきではないの？なんか違う。この違和感というか気持ちが盛り上がらないのは何故だろう。

ここは「筑紫日向の高千穂の久士布流多氣」の地か？

3. 歴史講座で

歴史講座に通って、歴史旅を一緒に「ぼくたち凡人だね」と笑い合える仲間が出来ました。お二人から「金子みすゞ」と「審神者神社」の話を聞きました。

金子みすゞは1984年に全集が出版され、没後50年を経て甦ったとのことでした。

ああ、あの頃か。知らないはずだ。サラリーマンやってると誰にでもフンコロガシみたいな日々を送る時もあるだろう。“失われた5年”なんていうと大げさだろうか、ジュリアナのお立ち台の女子と同じ時代を生きているとは思えなかった。

—大漁—

朝焼小焼だ
大漁だ
大羽鯛の大漁だ。
浜は祭りの
ようだけど
海のなかでは
何万の
鯛のとむらい
するだろう。

—こぶとり—

正直爺さんこぶがなく、
なんだか寂しくなりました。
意地悪爺さんこぶがふえ、
毎日わいわい泣いてます。
正直爺さんお見舞いだ、
わたしのこぶがついたとは、
やれやれ、ほんとにお気の毒、
も一度、一しょにまいりましょ。
山から出て来た二人づれ、
正直爺さんこぶ一つ
意地悪爺さんこぶ一つ、
二人でにこにこ笑ってた。

うっわーなんだこれは。なんという心のありか！

あの日々にこんな視線を誰も持たない。何人も退場していった。

『花咲爺さんここほれわんわん。タロちゃんほってもごみしかでない。花咲爺さんあたまにきたよ。しっぽをつかんでふりまわす。はなさ(ん)かじじいとタロちゃんいった』
大凡人はこんな乾燥したことしか思い出さない。

みすゞさんのまなざしとやさしさと技量を少しだけおすそ分けして欲しい。

この先輩から仙崎のかまぼこを一枚おすそ分けいただき「1.1mmで切って食べるんだよ」

このノウハウで引火して「前歯の歯茎で味わうと旨いんですよね」

今夜の1合は熱燗にしようか、ぬる燗にしようか。

審神者神社



「神功皇后九年三月一日、皇后は吉日をえらんで斎宮に入り、自ら神主となられた。武内宿禰に命じて琴をひかせ、中臣烏賊津使主をよんで、審神者（神託を聞いて意味を解く人）とされた」日本書紀のこれか。さにわと読むのか。桜葉降る時に訪ね、お話を聞いてきました。

「齋宮は古賀かここ久山町なんですよ」

「あごだしの久原がやってる古民家レストランに行ったことがあります」

「ひと山向こうが久原でここ山田と合併して、久山町になったんですよ」「やまだ？」
安徳台に行った時も、山田（の交差点は重要）という地名の話しを聞いたし、“邪馬台”
の発音が山田と似ているそうで、とても意味深ですね。

講座の先生からは忌宮神社について教えて頂きました。仲哀天皇が熊襲平定のために
下関に豊浦宮を営んだ。業半ばで崩御、宮殿跡に宮社を奉祀した。

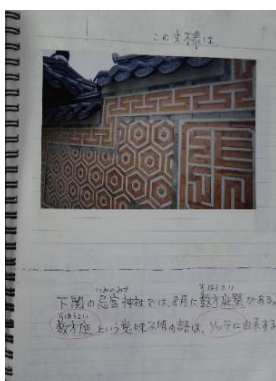
仲哀天皇と神功皇后の前進基地だったのです。さらに続けて、新羅のジンリンなる者
が九州の熊襲を扇動して、豊浦宮を攻めようとしたので、仲哀天皇はみずから弓矢を取
って、ジンリンを射殺した。ジンリンを埋めその上に石を据え（鬼石）、8月には周り
を踊って回る伝統行事が行われる。これが数方庭（すほうてい）の由来である。

実は私には、十数年来の数方庭ミステリーがあります。

古代史ノート一冊目の最初に、鎌足の写真と共に「鎌足の謎は倭国の謎である」

「7世紀の日本の人口は540万人。その90%が渡来人であった」と記されており、次
に談山神社、山辺の道、百済、伽耶、新羅、済州島へと続いていきます。

そして、新羅の都、慶州で撮った土塀と言メモ



「下関の忌宮神社では、8月に数方庭祭がある。数方庭という意
味不明の語は、ソツテに由来する」

「数方庭」なる字面から、数式、法則、幾何文様などが連想さ
れ興味があらぬ方向にずれていき、半島の各地のデザインばかり
に目が向き、大陸の影響なのか日本との類似性はあるのかそ
んなことばかり気になりました。今でこそ渡来人が90%とは思
えませんが、文様も倭国に大量に流れ込んできたはずであり、
日本と似た文様を伽耶や百済の都で見つけると楽しくなったも
のです。韓国に行くたびに撮った阿吽や狛犬や伽藍の写真ばかりが続くノートを見る
とよっぽど文様や形態に熱を上げていたのでしょう。

『トンイ』のコムゲのはちまき文様は王塚古墳の「わらび手文」とソックリです。

装飾古墳のお楽しみは別にして、ミステリーの解決には忌宮神社の数方庭祭を見なけ
れば緒にもつきません。十数年前に忌宮神社に突っ込んでいたら、神功皇后と親しくな
って、違う景色の中で古代史を楽しんでいたかもしれませぬ。いや、順序が違っていた
だけで神功皇后は福岡に移住してからでいいよという事だったのかもしれませぬ。

今年のお楽しみで、門司レトロから関門海峡を歩いて渡り、唐戸市場に行く計画があり
ます。「8月にしてもらおうかな。下関でヒレ酒を飲んでフグを食べよう。しかし、8月
のフグは大丈夫なのかな？」悲しいかな凡人は道楽が先に立ってしまうのです。

4. お城めぐり

薩摩の旅の余勢をかって、戦国時代が得意な田主丸の先輩とお城ツアーに出発する。名古屋城→岡崎城→長篠城→岩村城→犬山城→岐阜城→墨俣一夜城→大垣城→安土城→彦根城→大阪城の欲張りコースで桜と城を眺めるだけかと思っていましたが、里帰り気分は直に吹き飛びました。温泉や神社ツアーと訳が違う。山城に登る過酷さを思い知った。男女半々一人旅。33名の年齢の中央値は76、77歳と思われる。みんな一家言あるようだ。仏頂面や頑固爺や一刻爺や赤紅チェックのおばあちゃんや迫力の姉御が、みんな私をにらんでいる。(ように感じられた)

名古屋城

むかし、ニーハオとあだ名をつけた料理屋さんのバイトの娘に「中国人名古屋城行かない。犬山城行くよ。国宝でしょ」と言われた。金のシャチホコで客寄せは無理。愛知は自動車王国で繁栄を誇るが、EV化に遅れてラストベルトにならないか心配だが、トヨタは頑張るでしょう。ハチャメチャ感が無いから、大阪や福岡と違って街が面白くない。徳川宗春がもっと活躍していたら「尾張名古屋は城でもつ」になんてならなかったのに。八丁味噌の赤だしや寿がきやの味噌煮込みがソウルフードになってしまい、「矢場とん」の味噌カツも好物でよく食べたが、ある支店で「みそだれをかけているところを撮りましょうか」と言われムッカとした。わたし日本人あるよ。

岡崎城

子供の頃、矢作川の河川敷には見世物小屋が並び、ひとつ目を覗いてゾっとした。好奇心でいくつも檻の中を覗き込んだ。檻の中には人が閉じ込められていた。

『砂の器』は昭和35年。昭和40年代に日本でまだそんなことが行われていたのだ。心を揺さぶるこの出来事は頭の中に書き込んであり、差別や偏見を遠ざける経験知になっている。天守閣で先輩にこの話をした。「むかし見たよ。当たり前にあつたな〜」



「どうする家康」をこれから見るか見ないかどうしよう。『半蔵の門』とずいぶん違う。築山も違う、半蔵も違う。築山は氏真のお手付きだったから、あの結末もありうる。『カムイ伝』の一揆はあんなになまぬるくない。唯物史観全盛の頃の劇画と比べちゃいけないですね。松潤君を応援しているが、ジャニーズの面々では渋さに欠けるなあ。むかし『関ジャニ∞』を「せきじゃに無限大って何だ」と娘に聞いたら、あきらめ相手にされなくなった。一念奮起して、『嵐』の5人の名前を書いて、トイレに貼っておいたら破り取られた。それ以来、秘かにウオッチしているのです。

岩村城跡



日本三大山城は美濃岩村城、大和高取城、備中松山城。東洋のマチュピチュと云われている岩村城を目指す杖のおじいさんは階段で休み、平場で休み、一苦勞。二苦勞。標高 721m の 6 段積みの石垣まで大丈夫か。マチュピチュを見せてあげたい。

私は先月、福岡の古処山登りを「あなたの体力では 800m は無理だ」と言われ断念している。一家言の赤紅チェックのおばあちゃんは備中松山城と愛媛の松山城を混同してしまい、ガイドさんを困らせている。

長篠城では近くにある神社の **天** と鳥居氏の名字のことを訴えていた。鳥居強右衛門も武田の武将も良くご存じで、何だこりゃこの博識は！と驚くしかない。戦国通には当たり前のことかもしれないが、森蘭丸が二か月岩村城主だったことを知った。

バスが停まる度に条件反射で頻尿になる。

またトイレに行こうとするので「頻尿管理は私がやりますから。一日 8 回以内です」集合場所を間違える。他人の靴を履いて食事から戻る。山城は苦しくてハフハフで時間に遅れる。今までならば、どうかしてよと文句も出ようが歳を重ねた、もう怒らない。違う景色の中にいるのだ。

仲良くなるタイミングは食事の時しかない。帽子もマスクもとって顔が見える。

迫力の姉御は毎日ビール 6 缶飲む、気風の良いお姉さまでした。接近術を持つ先輩はあっという間に、一家言の赤紅チェックのおばあちゃんは 83 歳、杖のおじいさんは 86 歳と教えてくれた。

最高齢は 92 歳で、こりゃまたこのツアーはどんな集団か？ 70 歳は小僧の域だ。

姉御様はスーパーの野菜系で働いているので青果部長、おばあちゃんは戦国乙女、杖のおじいさんは八六爺ちゃんと呼ぶことにした。他にもゴルファー 75。この方は昭和 20 年生の 77 歳。75 を切れないのでゴルフを止めてお城巡りに切替えた。御城印を集めることは既に終わったのか、城の細部を写真に収めていた。

安土城

ああ、天主が残っていたら、(安土城だけは天主閣) 襖絵も見たかった。

燃やしてしまってもったいない。天主の石垣の石はビシッと割れている。

どうして？とガイドさんが謎掛けするが、裂田溝の大岩と同じ理屈なのだろうと直ぐ分かる。信長は階段に石仏を使っている。三日目でも八六爺ちゃんは天主を目指している。仏の格好をしても石は石。避けようとして、どうぞ転ばないように。

「古墳は宮内庁が閉じているのですが、ここは文化庁の規制があるのですか？」とガイ

ドさんに問うと「いえ、摠見寺さんの山なんです。勝手に手を入れられないのです」
古代史好きと見破られたのか「これから彦根城ですか。あそこの石垣に石棺の上蓋を使った石垣があるから聞いてみたら」

彦根城

車窓は琵琶湖。「10年前、竹生島に行ったっけ。あの時、息長足姫をかじりかけたけど、もっと勉強しておけばよかった。仲哀天皇って悲しい名前だ。

父のヤマトタケルを死に追いやった息長氏からなぜ妃を迎えたのだろうか？

戦前の英雄で事績も足跡も残っているのに、神功皇后って架空の人物なのだろうか？

大和政権内にゴタゴタがあって、応神天皇は河内に王朝を移したのだろうか？

どうも連続性に欠ける。河内の古墳群の調査をしたら大発見があろうに」

大阪城までは結構遠い。持って行った「金子みすゞ童謡集」をやっと開いた。

26歳で逝ってしまったみすゞの生涯を知るとこみあげてくる。

「可哀そうで、可哀そうで、これ本当の涙なんですよ」

目薬を差していた濁き目の先輩は言った。「おう、その感情がいいのだ」エッ???

大阪城

もう限界。私だけ諦めた。インバウンドの人達を観察していた。でも、3日で五万歩に何の不満もない。団塊世代よりもさらに生き抜いた人たちに教えてもらった。

大阪駅で856の豚まん買って新幹線の中で食べよう。青果部長から「551の蓬莱よ～」
戦国乙女は先輩に「私はずっと独りだったの。病気だったわ。それで本ばかり読んでいてね、歴史が好きなのよ。思い切ってお城にきたわ。迷惑ばかりかけてごめんなさいね」

頑固爺さんに見えた方は、ほぼ視力を持たない83歳の優しい方で、辛かったであろう今日までの出来事を語っていた。「競馬が大好きです。行かんでもできます。投票します」こんなことまで話したらしい。先輩はボソッと「俺、ちょっと勇気もらった」

—じいちゃん—

八六爺ちゃん大丈夫 みんないるから大丈夫

八六爺ちゃん日本酒徳利 そんなに呑んで大丈夫

お酒二合で靴まちがえた お山のお城に行けるかな

ニコッと笑みした大丈夫 歯のない笑顔あしたもみせて

みすゞ風に作って、「先輩、この詩どうですか？」ニカッと笑いながら「早いもん勝ちじゃ」エエエッ???あれもこれも表現に微妙な狂いがあるように思うんですが・・・。
広島の手前でトイレから戻る時、太ももをいきなりグワツとつかまれて「ありがとね」と八六爺ちゃん。「お元気でね」上手いも下手もどうでもいい。一言が心に残る。

5. 日常のある一日

目が覚めた。どこにいるのか分からなかった。カボチャが出て来てドキッとした。思い違いだ。

あの仁川の黄色いカボチャは片岡球子じゃない。

パラダイスシティのカボチャは草間彌生だ。

前回のエッセーに思い込みで書いてしまい、紙面をかりてお詫び致します。

不安になってネットでイエローサブマリン音頭を検索したら、水前寺清子じゃない。金沢明子だ。

いつからこんな間違いをするようになったのだろう。不安がることはない。

これからは「思い込みもある。言い張らない。」とノートに書いておこう。



ある日突然、福岡で出会った方からラインに『人生の扉』が送られてきた。「何だろう？」同時代を生きた者に通底する思いを、竹内まりやが歌っていた。初めて聴いた。

「春がまた来るたび ひとつ年を重ね 目に映る景色も 少しずつ変わるよ 小さなことも 覚えていたいと 心が言ったよ」

You say it's alright to be 70

And they say still good to be 80 . . .

3日で五万歩お城旅での、あらかし切れない私の気持ちを歌った曲が、どうして突然天から降ってきたのか不思議でなりません。

飛鳥川師匠が同窓会で福岡に来た、ある日のこと。

満開の福岡城界限を歩き回り、思い出話と古代史の情報交換であつという間に夕方になった。「今日の気分は稚加栄じゃないなあ、ちょっと探そか」

そして、いつもの、定番の大量飲酒が始まる。(が昔ほど呑めなくなっている)

大名の「たら福」でたらふく飲んでもまだ足らず、親不孝通りでもう一軒、ビールと餃子。まだ飲めとすすめられ、よほど青春はほろ甘かったと推察します。

寒椿散りてなお紅美しき

「この俳句、姉さまから指摘を受けてね。椿は散らない。落ちるんだよって。だから、寒椿落ちてなお紅美しき に訂正だ」

「もうひとつ。あの時、体重は増えたんだけどね。ゼイ肉が落ちて筋肉が増えたんだよ」人間だれしも矜恃がある。堂々とした親方のような振舞いを弟子は知っています。ゼイ肉買取キャンペーン以来、拮抗していたゴルフが全く勝てなくなったことを。

三步先遠き母いる桜道 (飛鳥川神矢)

『桜の森の満開の下』安吾に毛虫に怯える (大和川一路)

ある日のおひとり様検討会

【股関節痛大学病院式1分体操】【お風呂での転倒防止にしっかり握れるお風呂手すり】

【運転免許認知機能検査対策 車の運転脳 強化ドリル】

団塊世代の購買力は強い。そして記憶力の低下で買ったことも忘れて、また買うかも。「記憶は紐づけ」でやらないと、倭の五王を“珍興武讚濟”と言い出すかもしれません。

【明治安田 利上げに備え全社横断組織でアイデア集約】【生保 国債投資強化へ】

「資産運用などの現場では金利のある世界の未経験者が大半を占めることから、全社からアイデアやノウハウを持ち寄り、将来の利上げに備える」

日銀のゼロ金利政策は1999年導入。ゼロ金利でもそれが金利だ。全社からじゃなくて全社の50代の人からと透けて見える。明治と言えば三菱だ。ここでも現場崩壊が垣間見える。現場の若き人達はそんなにヤワじゃないのに。超長期国債を買い増す？ 少子化で国力は衰えていくのに、どこでリスクをとるのだろう。

【インバウンド復活 日本人気に拍車】増田明美さんのコラム

「マリーナベイサンズを訪れた。ホテル、国際会議場、劇場、ショッピングモール、レストラン、カジノというラインアップで…IR=カジノだと誤解していた。多くの国でカジノは合法化されている。今は観光資源のひとつになっているのだ。

入場制限をはじめ依存症対策をしっかりと行ったうえで…創り上げてほしいと思う」増田明美さんを誤解させ、そんな雰囲気蔓延させた役人や反対派の人達はマカオやラスベガスに行ったことがあるのだろうか？

入場制限？ 入場料6000円をとる国が世界のどこにありますか？

依存症対策？ 日本は賭博天国でサラリーマンのテンピン現金麻雀は賭博なんですよ。カジノは庶民から儲けようとしません。富裕層の遊びがカジノの儲けなんです。

現場を知らない人達が議論をミスリードしている。大王製紙の井川さんがマカオで100億円溶かしましたが、庶民にそんなお金はありません。

リスボアのスタンレー・ホーは税金を1.5兆円払っていました。

「日本のカジノに日本人は入れない」これで解決しませんか。

規制を全廃して、訪日外国人4000万人の社交場にすればいいのです。

今日のおひとり様検討会では良い結論が出たと思います。